

将門伝説と360度の展望が広がる一等三角点の山

標高 1038m

# 城峯山

西門平→鐘掛城→城峯山→城峯神社→表参道登山口→中郷登山口→万年橋



城峯山の展望台より両神山（左奥）を展望

徒歩時間4時間5分

## 公共交通機関

行き：秩父鉄道・皆野駅→皆野町営バス（30分・290円）→西門平 帰り：万年橋→西武観光バス（50分・580円）→西武秩父駅。

## ヒント

万年橋からのバスは少ないうえ車道歩きが長くなるので、人数が揃えば石間資料館などまでタクシーに来てもらうのもよい。皆野駅まで約4700円。

## マイカー

関越自動車道・花園ICより国道140号経由で男衾登山口まで約33km。西門平には駐車場はない。車の場合は男衾登山口に10台ほど止められる。

## 間合せ先

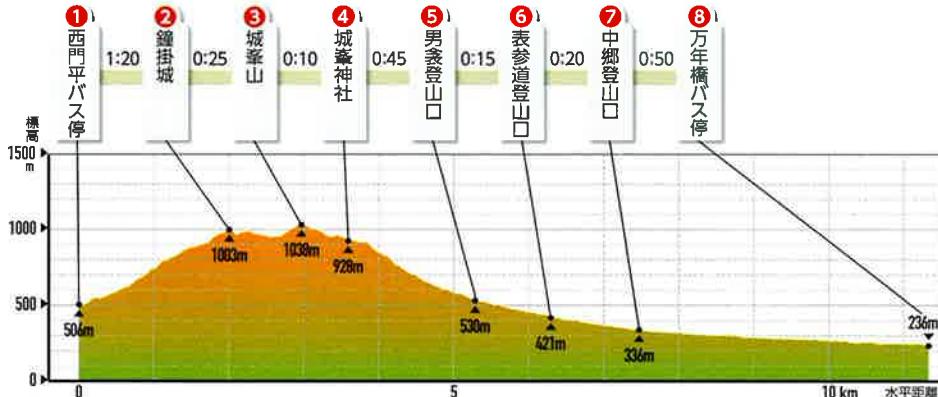
秩父觀光協会吉田支部 0494-72-6083  
皆野産業振興（営業） 0494-62-1230  
西武観光バス秩父営業所 0494-22-1635  
秩父觀光タクシーオーナー営業所 0494-62-0146

初級

徒歩距離 10.4km

標高差 登り：538m 下り：538m

登山レベル 体力：★★ 技術：★



## 標高が高い西門平側から登り 城峯神社の表参道を下る

**概要** 群馬県境近くに聳える城峯山は一等三角点がある360度の大パノラマが魅力の山だ。

山頂直下には平将門伝説が残る城峯神社がある。山上へは東麓や西麓、群馬県側からも山道が通じている。一般には西麓の表参道から登るが、ここでは東麓の西門平から登る逆コースを紹介したい。この方が登り出しの標高が高いため、山頂までの登りが楽になる。また、逆にすることで、下山後に資料館などに立ち寄ることもできる。

**コース** ①西門平バス停で下りたら車道を先へと進む。民家の先の道がカーブする角からコンクリート道を登っていく。じきに道標にしたがい山道へと入る。

沢を木橋で渡ったら、しばらくは杉の植林帯を登っていく。なかなか整備された植林地で、杉林は下枝が刈られ、山道もよく踏まれ歩きやすい道だ。途中、2回、車道を横切り登っていくと、1時間ほどで尾根の肩に出るので、このあたりで一息入れていこう。

ここから左へと尾根伝いにゆるやかに登っていく。途中、23号鉄塔の下を通過する。さらに尾



西門平の民家の脇から登山道へと進む

根道を登っていくと巻き道がある。分岐を右へと少し登れば②鐘掛城の頂上に到着する。北面側の展望が開け、御荷鉾山などが望める。

ここから城峯山へは、まず尾根上を一気に下っていく。先ほど分けた巻き道を合わせたら、ゆるやかに進む。再び巻き道があるが、右の尾根伝いの道を進めば、ピークからは鐘掛城同様北面の展望がよい。再び、巻き道を合わせ進むと、じきに石間峰に出る。車道が横切る傍らに東屋とトイレがある。このあたりにはカラマツが植林されており、新緑や黄葉の頃はなかなかきれいだ。

車道を渡り、カラマツ林のなかを登っていくと、15分ほどで③城峯山だ。山頂一帯は木々が伐採され広い園地のよう、中央には大きな電波鉄塔



## 楽しさアップの自然観察

## 落葉針葉樹のカラマツ

日本に自生する在来種では唯一の落葉針葉樹。漢字で「唐松（落葉松）」と書くため、中国原産と勘違いされるが、本州中部の山間に分布する日本固有の樹木。成長が早く寒冷にも強いため盛んに植林されたが、本来は崩壊地や河原、火山砂礫地といった乾いた土地に生育。葉は2~3cmの針状の葉が20本ほどまとまって束生し、芽吹きの頃は何とも可愛い。



石間峰から山頂にかけて見られるカラマツ。秋の黄葉がきれい



鐘掛城より北側に御荷鉾山を望む



大きな電波塔が建つ城峯山の山頂

が建っている。上は展望台にもなっており、まさに360度の大パノラマが広がる。秩父や奥武藏の山々をはじめ、遠く浅間山やハケ岳、日光連山、筑波山などが広がる。

下山は電波塔の裏を通り、眼下に見える赤い屋根の④城峯神社へ向け一気に下っていく。途中、右へと進んだところには平将門のかくれ岩がある（長い鎖場がかかり見に行くのは大変）。城峯神社の社殿前には見事な力エドがあり、秋の色づきはなんとも風情がある。

参拝を済ませたら下山。まずは神社参道として明治に300本が奉納されたという杉並木の間を下っていく。城峯神社からは再び植林帯を下つ

### 耳寄りコラム

#### 一等三角点って？

三角測量をする際の緯度・経度・標高の基準になる点が三角点で、三角点には一等から四等まである。一等三角点は約45km間隔で設置されている。一等三角点の山は展望がよいところも多く、一等三角点の山を踏破を目指す愛好家などもいる。埼玉県の山では城峯山の他に、三宝山、雲取山、堂平山、物見山、観音山に一等三角点が置かれている。



いく。途中、男衾登山口と半納登山口へと下る分岐がある。いずれをたどっても県道に出られるが、左へと男衾登山口へ下るのが早い。しばらくで畠に出て民家の間を抜けば⑥表参道登山口となる。ここから車道を下っていくと、大きな鳥居が立つ⑦表参道登山口となる。

ここからは左へと曲がり、石間川沿いの車道をひたすら下っていく。途中、水車小屋や石間交流学習館（旧石間小学校）を経て、⑧中郷登山口がある。さらに、猿田彦神社などを経て、⑨万年橋バス停に下り立つ。

（写真・文=松倉一夫）



趣ある社殿の城峯神社

